公益社団法人
東京都理学療法士協会 News
NO.219

2021.9.6 発行
◆発　行　公益社団法人
　東京都理学療法士協会
◆発行人　森島　健
◆編集人　井出　大
　医療法人社団永生会
　法人本部リハビリ統括管理部
　〒193-0942
　八王子市椚田町 583-15
　TEL :042-661-4108

御礼　第 32 回オリンピック競技大会（東京 2020）大会終了

フェンシング会場

スポーツ局　局長：板倉 尚子

2013 年 9 月 7 日、IOC 総会でジャック・ロゲ氏が「TOKYO 2020」と発表、1 年の延期を経て、2021 年 7 月 23 日 ~8 月 8 日に第 32 回オリンピック競技大会（2020 ／東京）が開催されました。これまでご協力下さいました関係者の皆様、そして理学療法サービススタッフを派遣して下さった所属先責任者の皆様に心より御礼申し上げます。

私と原田長先生の「都士会でスポーツ事業を！」との相談に林弘康先生が快く応じて下さり、当時会長の野本彰先生のご理解のもと、2012 年に「スポーツの理学療法委員会」が発足しました。士会活動が不慣れな私に豊田輝先生がご指導して下さり、当時、理学療法士 1 年目の水石裕先生が基盤づくりに尽力してくれました。2015 年にはスポーツ局に移行し、「スポーツ理学療法ビギナーをオリンピック・パラリンピックに！」をテーマに大会にむけて準備がスタートしました。2015 年 2 月 1 日の第 4 回区西北部ブロック学術大会（大会長／可児利明先生）で講師を担当し「Best Performance への挑戦　～ Global eye　2021 への道程～」の講演をしました。そのご縁で鈴木享之先生、渡邊祐介先生、北田利弘先生との出会いがありました。また、当時ブロック部長であった齋藤弘先生のご協力を得て、有志による勉強会（通称／レガティー）が結成され、この勉強会が実技研修会の基礎となりました。2016 年のリオデジャネイロオリンピックには斎藤弘先生と鈴木享之先生が視察に赴きました。現地情報が少ないなか飯海優氏が情報収集に奔走し視察計画を組み、また現地ではポルトガル語が母国語のためメディカルスタッフへのインタビューに困り果てていた時に、奇跡的にボクシング競技会場で通訳ボランティアスタッフをしていた坂本真実子氏に巡り合い、多くの情報を得ることができました。その報告を受けてオリンピックでは「急性期対応、テーピング、物理療法、そしてこれらのスキルを活かした十分なシナリオトレーニングが必要」と分かり、本格的な計画・準備が始まりました。技能テストでは、ファーストコンタクトからスペシャルテストを行いその結果を選手に伝えるところまでを（公財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（AT）の福井孝幸先生，上村聡先生、山本宜夫先生，柏崎陽有先生を始めとする AT の皆さま方にご指導頂きました。それに加え、特に理学療法士が苦手な急性期対応スキルに関しては、月ヶ瀬恭子先生，佐伯潤先生を始めとした国士舘大学防災・救急救助総合研究所の皆さま方のご協力のもと実践的な実技指導を受けることができました。更に、スポーツ理学療法ビギナーが現場力を養うには現場研修の確保が課題でしたが、東京都フェンシング協会専務理事辻村眞一郎氏より主催大会の救護担当の依頼を受け現場活動の場を得ることができました。また、フェンシングは動作が特徴的な競技であるため会長の山本耕司氏そして理事の田中由美子氏によるルール説明や動作体験のご指導も頂きました。そして、オリンピック前には幾度となく、日本フェンシング協会医学委員会の友利杏奈先生、水谷有里先生、日高正明先生にも繰り返しシナリオテストにてご指導を頂きました。その活動が認められ、オリンピックではフェンシング競技会場理学療法サービススタッフを担当することとなり 18 名の本会会員が参加するに至りました。理学療法サービスの質を上げるため舞台振付師の萩原季里氏の指導のもと、凛とした振る舞いを身につけるトレーニングも積み、鈴木享之会場主任率いるチームは「最高のメディカルチーム！」と高評価を得ました。バレーボール会場、野球会場でもスポーツ局に関わる会員が活躍し、男子エペチームや野球の金メダル獲得の瞬間には理学療法士としての誇りを感じたはずです。多くの方々との出会いが奇跡的に重なり、この事業が形になりました。特に野々山真樹先生はこの仕事を成功させるために所属先を辞し、私と職場をともにしてオリンピックの準備に参加してくれました。その決意には頭が下がるばかりです。

6 年半におよぶ準備期間を経てオリンピックが閉幕しました。スポーツ局事業にご理解・ご協力下さいました森島健会長、そして多くの皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

スポーツ局は国際的なビックイベントを経験した仲間を財産とし「みんなでスポーツ！、みんなのスポーツ！」をテーマにさらに事業展開します。今後ともスポーツ局事業へのご参加、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

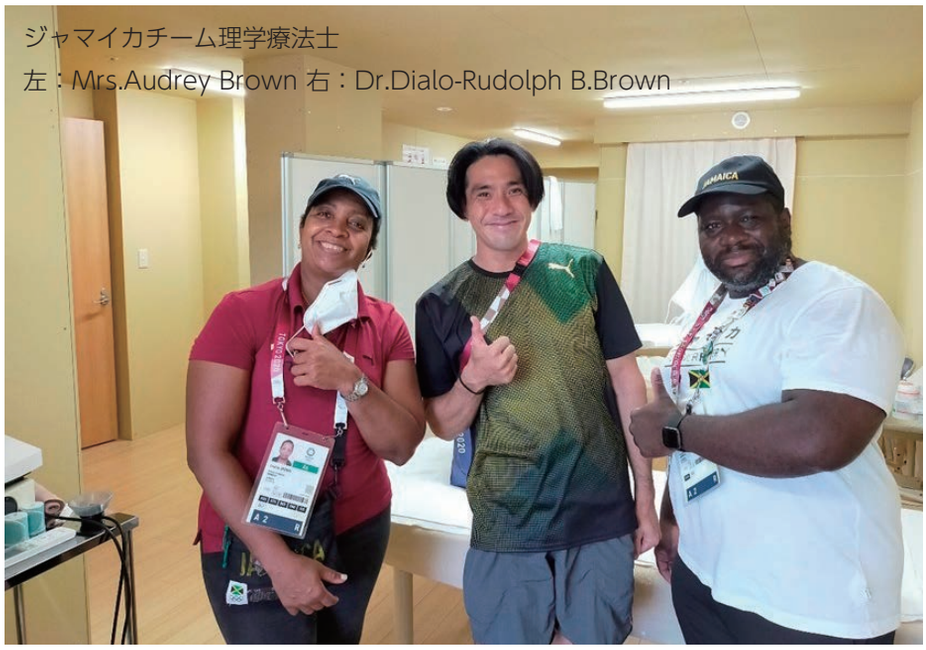
219 号の目次

スポーツ局 …… 1 ～ 5
国際競技大会・スポーツ理学療法推進部 …… 6 ～ 8
学校保健部 …… 8
スポーツイベントサポート部 …… 9 ～ 12
広報局 …… 13
新人教育部 …… 14 ～ 15
理学療法関連機器開発委員会 …… 15
エスカレーターマナーアップ推進委員会 …… 16 ～ 18
地域活性局 …… 19 ～ 20
災害対策委員会 …… 21
機関紙編集部 …… 21 ～ 22
編集後記 …… 22

報　告

局長　板倉 尚子

ジャマイカ選手団サポート活動報告



ジャマイカチーム理学療法士
左：Mrs.Audrey Brown 右：Dr.Dialo-Rudolph B.Brown

2020 年東京オリンピック競技大会期間中にジャマイカ選手団のメディカルサポートを行う機会を得ましたのでご報告させていただきます。Japan メディカルサポートチームはコーディネーター 2 名、整形外科医 2 名、理学療法士 1 名、柔道整復師 1 名で編成しジャマイカ選手団のサポート活動を行いました。
言語の壁がありましたが、選手に対するコンディショニング、テーピング処置、急性期対応など、選手が競技に向けてパフォーマンスが発揮できるように関われたことは一生の経験になりました。最後になりますが、このような機会を与えてくださった森島会長に深く感謝申し上げます。

左から
・整形外科医：佐藤敦・理学療法士：野々山真樹・整形外科医：長崎計
・ジャマイカ大使館コーディネーター：野見山玲子・通訳兼コーディネーター：山根孝之
・柔道整復師：工藤浩一郎

文責：スポーツ局学校保健部　部長　野々山真樹（日本女子体育大学健康管理センター）

報　告

局長　板倉　尚子

東京２０２０第 32 回オリンピック競技大会フェンシング会場救護

日　　時：2021 年 7 月 19 日～ 8 月 1 日（計 14 日間）
会　　場：幕張メッセ A ホール、B ホール
理学療法士：延べ 42 名

2021 年 7 月 30 日、男子エペ団体日本代表は決勝戦でロシアオリンピック委員会を倒し、金メダルを獲得しました！！

日頃からスポーツ局ではフェンシング大会会場サポートを実施してきました。サポートメンバーの中にはスポーツ現場での活動が未経験の先生もいらっしゃいました。

これまでスポーツ局では現場活動のため、フェンシングルール説明・動作体験、傷の手当て、テーピング、大会会場サポート、スポーツ理学療法実施の場の提供､語学研修などなどフェンシング会場に限らず､スポーツ現場で必要なスキルを提供してきました。日頃より、スポーツ理学療法を高め合いたいと考えている仲間たちと現場経験させて頂いたことは貴重な時間でした。時には上手くいかないこと、悩むこともあったと思いますが、話し合い、様々な経験を通し、前進できたと思います。現場に立つことで選手達の心構えを感じるとともに私たちもしっかりとサポートできるように取り組んできました。

オリンピック会場という場に東京都理学療法士協会メンバーで立てるようになったことを誇りに感じるとともに感謝しかありません。

このような素晴らしいプログラムを組んで下さった板倉尚子局長、スポーツ局員及びサポートメンバーを牽引し続けて下さったフェンシング会場主任 鈴木享之次長、フェンシング協会医事委員として鈴木先生と共にフォローし続けて下さった北田利弘先生、生井真樹先生、西條攻先生、様々な事業を通してサポート下さいましたスポーツ局員の皆様、フェンシング会場サポートにご協力頂いている皆様、現場提供・現場活動・講習会でご指導ご協力下さいました東京都フェンシング協会、医師、AT 等ご支援ご協力頂いた皆様に心から感謝します。

東京 2020 オリンピック競技大会は閉会しましたが、スポーツ現場活動は続きます。私たちと一緒にスポーツ理学療法に取り組んでみませんか？ここには情熱と感動があります。

文責：スポーツ局スポーツイベントサポート部　部長　　渡邊祐介 (浮間中央病院)

報　告

局長　板倉 尚子

東京 2020 オリンピック競技大会バレーボール（インドア・ビーチ）会場救護

日　　時：2021 年 7 月 19 日～ 8 月 8 日（計 21 日間）
会　　場：有明アリーナ（インドア）/ 潮風公園（ビーチ）
理学療法士：45 名（インドア 27 名　ビーチ 18 名）

東京 2020 オリンピック競技大会バレーボール会場において、インドアでは女子は惜しくも予選敗退となりましたが、男子は 29 年ぶりの決勝ラウンドへ進むことができました。また、ビーチにおいても各国の強豪国を相手に連日熱い試合が繰り広げられ、インドア・ビーチともに日本代表選手の勇姿を見ることができました。

私たち理学療法士はこの国際競技大会の中で、メディカルスタッフの一員としてバレーボール会場における大会救護を経験させていただくことができました。

大会準備期には、世界各国から訪日する全ての選手に対して質の高いサポートを目指し、テーピングや応急手当、また語学研修会を実施しスキルアップを図りました。

基本的にバレーボールは急性外傷が発生しにくい競技と言われますが、大会期間中の公式練習や試合の中で障害発生に遭遇する機会もあり、固定や搬送、また熱中症の対応など世界のトップアスリートに関わる経験も得ることができました。実際に世界のトップアスリートが戦うフィールドに立つことで、改めて選手たちは人生をかけてこの場に辿り着いているのだということを感じるとともに、理学療法士としてオリンピックの舞台に参加させていただけたことを大変誇りに思いました。

Team Medical

ベネズエラ代表チームの理学療法士と

前例のない環境の中でのオリンピック競技大会の開催となりましたが、医師や看護師などの医科学スタッフだけでなく、アスレティックトレーナーや救急救命士、また大会組織委員会の方々や多くのボランティアスタッフの方々と共同することで幾つもの事象をともに解決しながら、それぞれの専門性を活かし一つの大きなイベントを成功させるための 1 つのピースになれたことは、今後のスポーツ理学療法を発展させていくための非常に大きな経験になったと感じます。

スポーツのフィールドには理学療法士が力を発揮できる場面がたくさんあり、そしてスキルアップを後押ししてくれるようなワクワクする出会いや体験、感動がたくさんあります。是非今後も多くの理学療法士の方々と現場を共有し、スポーツ理学療法の発展に尽力できたらと思います。

文責：スポーツ局国際競技大会・スポーツ理学療法推進部　部長　水石裕（杏林大学医学部付属病院）

報　告

局長　板倉　尚子

東京２０２０野球・ソフトボール競技大会活動報告

2020 年東京オリンピック競技大会にて野球・ソフトボールの両競技にて金メダルを獲得することができました！本当におめでとうございます！！

この国際大会を裏側で支えたメディカルボランティアスタッフとして東京都理学療法士協会は 12 名の都士会員を派遣させて頂きました。連日猛暑の中、スクープ (救急搬送) 練習を行い、選手や審判の安全を確保すべく活動をしてきました。

理学療法士がこのような国際大会に参加できることは、とても誇りに思えることではあります。しかし同時に、現場での必要な急性期対応などの知識は不十分と感じることが多かったです。スポーツの現場では、日本で現在担っている以上に、国際的には理学療法士に多くのことが求められます。そして、活躍の可能性がまだまだあります。国際的に認められる知識や技術の獲得を出来るシステム作りをし、多くの理学療法士を現場活動に参加できる人材を増やしていけたらと思います。

文責：スポーツ局学校保健部　部長　野々山真樹（日本女子体育大学健康管理センター）

報　告

国際競技大会・スポーツ理学療法推進部

部長　水石 裕

東京 2020 オリンピック競技大会理学療法サービス　終了報告

2021 年 7 月 19 日から 8 月 8 日の計 21 日間にわたり、スポーツ理学療法に携わる多くの東京都理学療法士協会会員がメディカルボランティアスタッフとして東京 2020 オリンピック競技大会に参加し、無事にサポート活動を終えることができました。
2013 年 9 月 7 日、2020 年の夏期オリンピック・パラリンピック競技大会の開催地が東京に決定したのと同時期に、東京都理学療法士協会 スポーツの理学療法委員会（現スポーツ局）に国際競技大会・スポーツ理学療法推進部が立ち上がりました。板倉尚子部長（現スポーツ局長）の元、2020 年の大舞台に向けて、一人でも多くの理学療法士をスタッフとして派遣するべく、そして世界の競技者に質の高い日本の理学療法サービスを提供するべく当部は走り出しました。
世界各国の競技者は人生をかけて 4 年間を戦い抜き、一握りの選手のみがオリンピックの切符を掴むことができます。私たち理学療法サービススタッフもそのような選手達と同じ気持ちで準備にあたり、そして当日のオリンピックの舞台に自信を持って立てるよう推進部も研修会の企画・運営に尽力してきました。多くの方々のご理解とご協力なくして 2020 大会に向けての準備は成り立ちませんでした。中でも、スポーツ理学療法の魅力や基礎知識を多くのスポーツ理学療法ビギナーに伝えてくださった板倉尚子先生、推進部スタッフとして語学研修会を担当してくださった宮川裕介先生、瀧本知未先生は数多くの場面で講師としてご尽力いただきました。各支部においてもスポーツ担当者の方々を中心に多くの実りある研修会を企画・運営してくださりました。また、外部組織の方々も私たちの活動にご賛同くださり、多くの他職種の方々が講師として研修会の開催にご協力くださいました。
今まで関わってくださった全ての方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

　最後になりますが、東京 2020 オリンピック競技大会は終了しましたが、スポーツ理学療法はこれからが勝負です。この素晴らしいオリンピック競技大会のサポートを経験した理学療法士が、そしてあの場に立ってみたいと感じた理学療法士の今の想いが次世代のスポーツ理学療法を築いていく起爆剤になるはずです。
是非多くの皆様とスポーツ現場にあるワクワクやドキドキ、そして感動を共有していきたいと思います。そのために国際競技大会・スポーツ理学療法推進部は競技者のために、そしてスポーツ理学療法を学びたい会員皆様のために実りある研修会を今後も企画していきます。
引き続きよろしくお願いいたします。

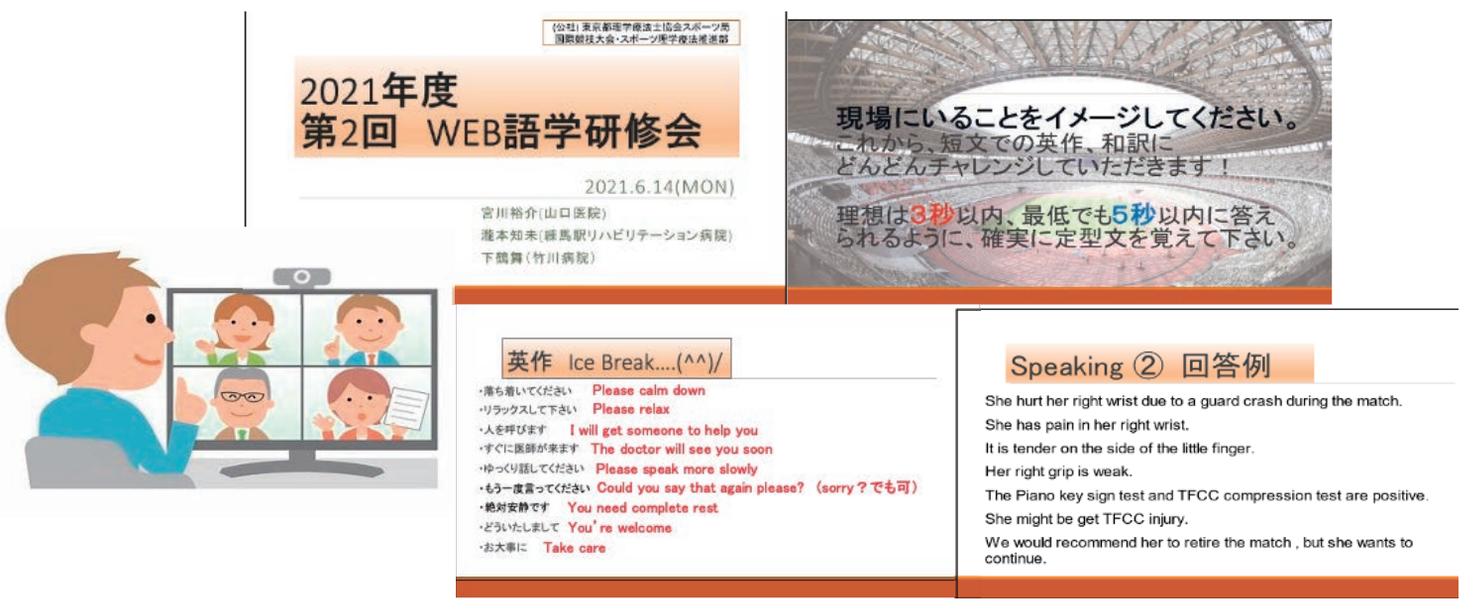
文責：国際競技大会・スポーツ理学療法推進部部長：水石裕（杏林大学医学部付属病院）／副部長：北田利弘（竹川病院）

国際競技大会・スポーツ理学療法推進部

部長　水石 裕

第２回語学研修会報告

【日時】2021 年 6 月 14 日（月）20：30 ～ 21：30
【会場】Web 開催（Zoom）
【講師】宮川裕介（山口医院）、瀧本知未（練馬駅リハビリテーション病院）、下鶴舞（竹川病院）
【参加者】30 名
【内容】今回は、東京 2020 前最後の語学研修会ということであったため、WEB にてレベル別で実施させていただきました。参加者の方には事前アンケートで語学レベルを自己申告していただき、2 グループに分けて実施しました。
１つのグループは英語が苦手な方向けに単語や定型文を瞬間的に話す内容を中心に、もう一方のグループは、英語が得意な方向けに長文のリスニングや与えられた情報からスピーキングをする内容中心に実施しました。どちらのグループでも意欲的に取り組んでいただき、東京 2020 に対する熱い思いが伝わってきました。実践的な語学研修会を開催することで、少しでも本番で選手や関係者と英語でコミュニケーションが取れ、医療サポートがスムースに遂行できることを願い実施しました。
大会直前で、お忙しい中にも関わらず、ご参加してくださいました先生方ありがとうございました。



文責：瀧本知未（練馬駅リハビリテーション病院）

Let's try!! 簡単な例文

① Please wash your hands and gargle.　手を洗ってうがいをしてください。
② Please wear a mask.　マスクをしてください。
③ I hope everything is going well for you. あなたにとって全ての事が順調であること願っています。
④ Please take care of yourself. ご自愛ください。

We hope things get back to normal soon. Please take care of yourself.
早く全てが元通りになることを祈っています。お身体ご自愛ください。

文責：宮川裕介（山口医院）・瀧本知未（練馬駅リハビリテーション病院）

国際競技大会・スポーツ理学療法推進部

報　告

部長　水石 裕

第３回オリンピック・パラリンピック理学療法サービススタッフ向けアンチ・ドーピング講座

【日時】2021 年 7 月 9 日（金）19：00 ～ 20：00
【会場】Web 開催（Zoom）
【講師】大堀裕太先生（公認スポーツファーマシスト）／薬樹株式会社
【参加者】23 名
【内容】今回は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催前に公認スポーツファーマシストの大堀先生をお招きして、ドーピングについての基礎からサポートに関わるスタッフ向けの注意点やドーピングに関する情報の得方等を講義して頂きました。

　ドーピングに関して、理学療法士の業務では直接関わる事が少ないため、普段の生活でも使用したり、口にしたりしている物がドーピング違反になる事がある等、初めて知る内容が多く大変勉強になりました。サポートスタッフとして知らなかったでは済まされない内容で、ドーピングがもたらす悪影響や罰則について、また選手たちがどのような思いで身を守っているのかを知り、今後サポートする上での私たちの役割を考える貴重な機会となりました。
大会前に、選手たちが大会期間中に行う検査や方法を知る事が出来て、講義を受けていたスタッフも大会サポートに向けて、より一層士気が高まるのを感じました。ご参加してくださいました先生方、講義を引き受け頂いた薬樹株式会社様・大堀先生に心より感謝致します。

報告者：森本孝則（Physical Care Room T）

学校保健部

報　告

部長　野々山真樹

豊島区立富士見台小学校における新体力テストのサポート事業

豊島区立富士見台小学校における新体力テストのサポート事業
日時：2021 年 5 月 28 日 (金)　8：45 ～ 15：30
参加メンバー：9 名
内容：
豊島区立富士見台小学校より、全国統一で小学校にて行われている新体力テストのサポート依頼があり、理学療法士 6 名と理学療法士養成校の学生 3 名の計 9 名で測定補助を行いました。本事業は 2019 年にも一度おこなっており、今回で 2 回目の実施となりました。
体力テストは 1 年生と 6 年生、2 年生と 4 年生、3 年生と 5 年生の 2 学年ずつ組み合わせでそれぞれ 2 時限分、丸一日かけて行われました。私たちは測定項目のうち、主に長座位体前屈と立ち幅跳びのお手伝いしました。長座位体前屈の注意点や、立ち幅跳びで遠くに跳ぶポイントなどをデモンストレーションもまじえながら説明し、計測をしました。
子どもたち同士で楽しそうに測定する姿をみたり、計測に戸惑う生徒にこちらから声をかけたりして、私たちも楽しく計測に関われました。今回直接サポートを行わなかった項目ですが、反復横跳びの動きがうまくできない子が学年を問わず多い印象があったのが少し気になりました。
昨年は新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言中ということもあり新体力テスト自体中止だったとのことで、教員の方より「子どもたちの体力低下がどの程度あるのか心配」との声も聞かれました。また「理学療法士が生徒の運動などの面でサポートに入ってもらえるのは心強い」とのお話もいただきました。今後も理学療法士としての専門性を活かし、子どもたちの健康に寄与できるよう継続して関わっていきたいと思います。

報告者：田邊泰雅 (目白整形外科内科)

報　告

スポーツイベントサポート部

部長　渡邊祐介

車椅子陸上教室サポート教室⑤

日　　程：2021 年 5 月 22 日、6 月 12 日、7 月 17 日（計 3 日間）
会　　場：江戸川区陸上競技場
参加者数：延べ 26 名
派遣者数：延べ 12 名

江戸川区では東京マラソン財団の協力のもと、パラ陸上チャレンジサポートとして「EDORIKU 車いす陸上教室」を今年度は 5 月から（全 6 回）開催しており、私達も参加して参りましたので活動報告致します。
スポーツイベントサポート部では、参加者に教室開始前後のウォーミングアップ＆クールダウン、レーサー車いすへの移乗介助、シーティング調整、走行介助や誘導、トレーニング指導等のサポート活動を行いました。また、ご家族様も含めた日常生活上での不安要素に対する相談・指導も行いました。教室には初めて参加された方もおり、基礎疾患の把握を進めながら、熱中症予防にも努めました。この EDORIKU 車いす陸上教室では一貫して、体調チェックから機器の操作等（準備から片付け迄）全ての事を自立して行えるように促しており、初めは不安な参加者やご家族様も、回数を重ねるごとにできることが増え新しい発見に胸躍り、多くの喜びの声が聞かれています。
サポートスタッフとして参加した先生方からも「普段の業務に対して更なる励みとなりました。」と貴重な経験となった様です。これからも、多くの皆様に体を動かす楽しさや面白さ、そしてパラスポーツを通して自立した人生の輝きを伝えられるようにサポートできればと思います。最後になりますが、ご協力下さった皆様有難う御座いました。

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　鈴木真治 (森山ケアセンター)

報　告

スポーツイベントサポート部

部長　渡邊祐介

杉並区スポーツアカデミー指導者養成講習会　～高齢者の運動指導について～

日　　時：2021 年 6 月 26 日
場　　所：杉並区立産業商工会館
参　加　者：15 名
理学療法士：２名

杉並区では「すぎなみスポーツアカデミー」でスポーツに関わる学びを提供しており、スポーツに関わる指導者を養成するため、指導者養成講習会を開催しております。
参加者は杉並区の方々で老若男女問わず多くの方が参加され、スポーツ指導者を目指し地域スポーツ団体などのリーダーとして、スポーツ指導や運営に関する知識を学ぶ講座となっています。
この度は講座の中で「高齢者の運動指導について」というテーマで講師のご依頼を頂きました。
テーマの内容は①高齢者の身体的特徴②フレイルについて③骨粗鬆症について④ロコモティブシンドロームについて⑤認知症について⑥運動紹介という内容でお話しをさせて頂きました。運動紹介では実技を交えながらストレッチやロコトレ、コグニサイズ、バランス練習などを紹介し、受講者の方々も楽しみながら運動に取り組まれていました。
新型コロナウイルスの感染が拡大しており、自粛生活が続きフレイルが問題視されていることからも、とても興味・関心を示して頂きました。また講座の感想として「とても勉強になり体を動かすことは大事で、継続することが大事ですね！」と嬉しいお言葉も頂戴しました。この度は清泉クリニック整形外科の菅谷真希先生、ご協力頂き大変感謝致します。
11 月にも「地域スポーツ with コロナ 高齢者の運動」というテーマで運動の実技を交えての講師依頼を頂いております。今後も杉並区の地域スポーツの発展のため、スポーツアカデミー指導者を目指す方へ力添えが出来るよう杉並区事業に取り組んで行きたいと思います。

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　西條 攻（三宿病院）

スポーツイベントサポート部

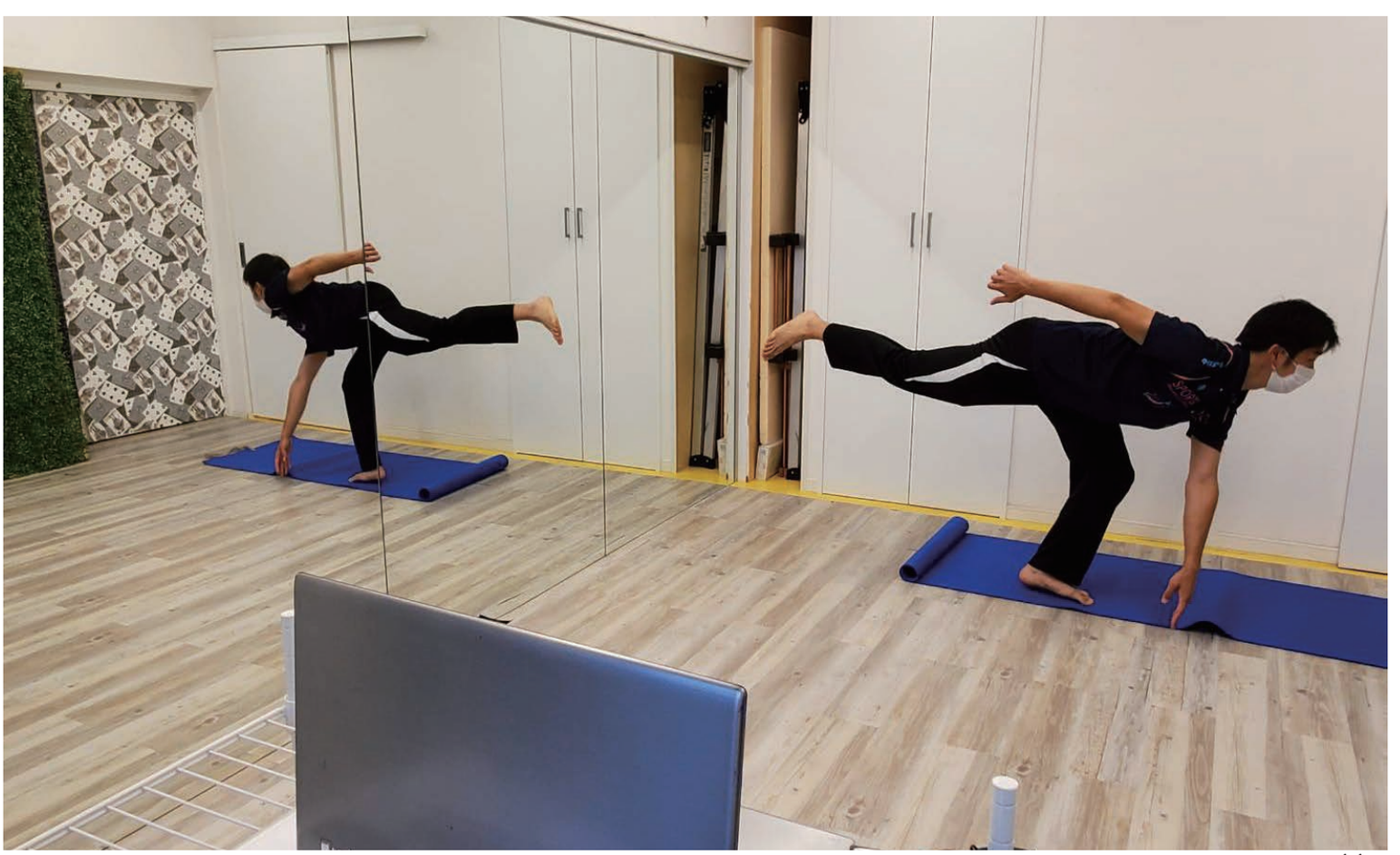
部長　渡邊祐介

青山学院大学フェンシング部サポート報告

日　　時：2021 年 5 月 22 日、6 月 5 日、19 日、7 月 3 日、17 日、8 月 14 日（計 6 日間）
使用ツール：ZOOM
参加選手：104 名
理学療法士：15 名

スポーツ局では引き続き青山学院大学フェンシング部のフィジカルチェックおよびトレーニング、身体の相談など個人対応のサポートを行わせて頂いています。緊急事態宣言の発令に伴いオンライントレーニングを継続しました。
運動不足による運動中の環境変化（身体内変化も含む）への対応能力の低下にも気を付けつつ、適宜の休憩や水分補給など熱中症対策を促しながら実施しました。また、新入生、上級生、女性の 3 チームに分けて指導しました。経験値や筋力・持久力等体格差を考慮した少人数のグループに分ける事により、それぞれに適した姿勢や動作の目的を詳細に伝えながら行う事が出来ました。
このコロナ禍においてもオンライントレーニングを継続してきた事により筋肉量など体組成は維持され、フィジカルチェックでは特に上級生グループのパフォーマンス向上がみられてきています。少しずつですが、私たちのサポート活動の効果も感じ取れる様になりました。更に、上級生はトレーニングフォームを意識して新入生に指導をしたり、身体に違和感があれば積極的に声を掛けてくれるなど、個々人の意識が変わり、チーム全体の成長もみられてきています。また、監督・コーチとオンライン会議にて目標を共有しトレーニング内容を再考した上で、個別性を高められる様工夫して進めています。
コロナ禍は続いておりますが、監督、コーチ、学生のニーズに応えながらチーム全体のパフォーマンスアップに貢献できるように努めていきたいと思います。最後に、共に活動している先生方、そしてご協力頂いております皆様、引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

文責：スポーツ局スポーツイベントサポート部　西垣　有希子（調布市子ども発達センター）



報　告

スポーツイベントサポート部

部長　渡邊祐介

日本フェンシング協会・東京都フェンシング協会主催

フェンシング大会メディカルサポート報告

日　　程：2021 年 6 月 6 日、6 月 27 日、7 月 3 日、7 月 4 日、7 月 10 日、7 月 22 日～ 24 日（計 8 日間）
会　　場：駒沢オリンピック公園体育館、赤羽体育館、北区滝野川体育館
参 加 選 手：延べ 1169 名
理学療法士：延べ 25 名

数日間にわたり国民体育大会東京都予選、全国小学生大会東京都予選会、東京都選手権大会カデ部門・ジュニア部門、全国中学生大会が行われ、メディカルサポートスタッフとして当会理学療法士が参加致しました。

大会は感染拡大防止のための予防策が十分に取られており、発熱等の体調不良者はいませんでしたが、以前よりも練習時間が減り、大会参加も制限されている影響かコンディション不足で医務室に来る選手も多い印象でした。

メディカルサポートに入ったスタッフの中には、昨年 1 年間スポーツイベントが開催されなかったために久しぶりに活動をするスタッフもおりましたが、常日頃から選手に対応できるように通常業務の中や自宅での準備をしっかりとされており、メンバー同士で協力してサポートに当たることができました。

今回の大会は小中学生の参加者が多く、大会後半では東京 2020 オリンピック競技大会と日程も重なり、選手達は未来のオリンピアンを夢見て懸命に戦っておりました。

これから大きく羽ばたこうとしている若い世代の選手をサポートするメディカルスタッフの役割は非常に重要だと感じました。選手たちを十分サポートできるように、今後も準備していきたいと思います。

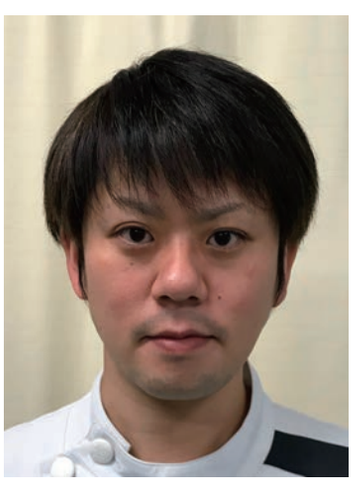
最後に、このような状況の中でも大会サポートの機会を与えていただいた日本フェンシング協会様、東京都フェンシング協会様、活動をご支援頂いた東京都理学療法士協会、大会関係者や参加者の皆様に感謝致します。

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　副部長　生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

東京都理学療法士協会　新理事のご挨拶

氏　名　　神原　舞子
所　属　　株式会社ピュア・ハート　訪問看護ステーション・青い空
担　当　　福祉保健局次長、渉外局介護報酬部部長
抱　負

この度、新理事に就任し、福祉保健局次長と渉外局介護報酬部部長を拝命いたしました。
私は、平成 24 年（2012 年）より、福祉保健局の事業である訪問リハビリテーション実務者研修会の運営委員として協会の活動に参加してきました。この 10 年の間で、介護保険における訪問リハビリテーション（訪問看護を含む）は、様々に制度の見直しが行われました。その時々の情勢に合わせ、訪問リハビリテーションに関わる会員の方々へ、より良い学びの場となるよう研修会の企画・運営を行ってきました。
今年度の改定では、LIFE の導入などにより、評価と計画や目標を明確にしたサービスの提供が求められています。また、通所介護にも LIFE が導入となり、理学療法士等の活躍の場が増えています。このように介護保険では、様々な施設に理学療法士が所属し、活躍しています。
理事就任にあたり、二つの役職を拝命いたしました。福祉保健局次長として、会員の方々へ、現場で活かせる研修会の企画立案・運営と、研修会などで交流する中で皆様のご意見をいただきたいと考えています。併せて、渉外局介護報酬部部長として、介護報酬改定が与える影響についてアンケート調査の実施などにより、様々な施設の状況を把握したいと考えています。それらの活動の中で、福祉保健局と渉外局の活動をつなぎ、会員の方々と協会の架け橋ができるよう、努力して参りたいと思います。
コロナ禍であり、直接、会員の方々と交流する機会が少ない状況ではありますが、私も訪問看護ステーションの理学療法士として活動する中で感じることを、現場で活動する会員の声にしていきたいと思います。
　至らぬ点もあるかと思いますが、協会活動にご協力いただければと思います。



氏　名　鈴木　享之
所　属　社会医療法人社団大成会　長汐病院
担　当　スポーツ局事業
抱　負

　理事に就任致しました鈴木享之です。私は、これまで区西北部ブロック部世話人や豊島区支部員として、様々な施設で働く多くの仲間と共に「介護予防活動」「転倒予防・フレイル予防教室」「子どもの運動器の健康に関する活動」等を行って参りました。その活動は 10 年以上になります。2016 年にはリオデジャネイロオリンピック大会を視察し、東京 2020 オリンピック大会ではフェンシング会場主任を担当しました。私の経験を活かし、スポーツ理学療法士を目指す若手のセラピストが地域スポーツから国際大会の現場に至るまで、現場経験を積める事業をスポーツ局員と共に進めて参ります。
　私達が経験してきた 10 年を経て、理学療法士の役割は子どもから高齢者に至るまで、皆が元気で健康的かつ情熱的な生活をするため、医療機関にとどまることなく地域への活動に繋げるスペシャリストであると実感しました。そこで私は、理学療法士が地域活動に参加し易くするための更なる環境整備や身分保障、教育的支援の充実を進めていきたいと考えています。その為にも、皆さまのご支援ご協力を何卒どうぞ宜しくお願い申し上げます。まずは一度、私達と理学療法を情熱的に考える一年にしてみましょう！！

新人教育部

報　告

部長　古川　順光

1.　令和３年度新人教育プログラム研修会開催の報告

現在まで５つの研修会をいずれもオンラインで実施し、開催日と参加者数は以下の通りでした。

1)　症例検討①歩行機能の再構築に向けた理学療法の一例：６月 30 日，７名

2)　新人理学療法士のための疾患別理学療法ガイド①（神経・内部障害・高齢者編）：７月３日，８名

3)　新人理学療法士のための疾患別理学療法ガイド②（運動器編）：７月 17 日，24 名

4)　症例検討②歩行機能の再構築に向けた理学療法の一例（運動器）：７月 21 日，９名

5)　新人教育プログラム第１回研修会（必須初期研修）：８月１日，12 名

2.　今後の開催予定

以下の通り開催予定です。1）に関してはすでに募集を終了していますが、2）に関してはこれから募集しますので、受講希望の方は日本理学療法士協会（JPTA）マイページからお申し込みください。

1)　新人教育プログラム第２回研修会：９月 11 日（募集終了），B-4，D-3，E-1

2)　新人教育プログラム第３回研修会：これから募集予定。

日時：令和４年２月５日（土）14：30 ～ 18：00（予定）

会場：未定（都内の会場を予定）＊状況によっては Web 開催に変更

内容：B 理学療法の基礎・D 理学療法の専門性・E 理学療法における人材の育成から３テーマ（第２回研修会で実施したテーマを除く）

定員：150 名

受講申込期間：令和３年 12 月 10 日（金）～令和４年１月８日（木）（予定）

3.　都士会主催新プロ研修会当日の持参品等

対面形式で行われる研修会の当日は、①日本理学療法士協会会員カード・②講義資料（協会マイページから各自でダウンロード）・③受講手続き完了を証明できるもの（受講料支払明細等）・④協会マイページの ID および PW を必ずご持参ください。

Web 形式で開催される研修会時は、①日本理学療法士協会会員カードを提示できるように準備しておいてください。その他は研修会担当者の指示に従ってください。

4.　受講履歴の確認・修了申請

受講履歴は日本理学療法士協会のマイページから各自で確認できます。

各研修会が開催された後、主催者側から日本理学療法士協会へ宛てて受講者の情報を送付しています。その後、日本理学療法士協会により受講履歴が登録されます。受講後、会員のマイページへの取得単位等の情報が反映されるまでは約１ヶ月半を要します。２ヶ月以上経過しても反映されない場合は、日本理学療法士協会へ直接お問い合わせください。全ての単位を取得した後にマイページから修了申請が可能となります。ご自身で申請しないと修了となりませんのでご注意ください。

5.　「C-6　症例発表」単位認定手続きについて

平成 24 年度から新人教育プログラムにおける C-6 症例発表（3 単位）の単位は、「全国学会・ブロック学会・都道府県士会および専門領域部会が認めるもの」における発表を認定することになっています。申請方法は都士会ホームページをご参照願います。

東京都理学療法士協会が認めている学会は以下の通りです（令和３年８月現在，順不同）。
JR リハビリテーション医療学会，WCPT AWP & PTAT，ISPRM，肩の運動機能研究会，国立病院総合医学会，
全国介護老人保健施設大会，全国デイ・ケア研究大会，全日本病院学会，東京都病院学会，
専門リハビリテーション研究会，西多摩リハビリテーション研修会，日本 PNF 研究会学術集会，日本交通医学会，
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会，日本保健科学学会学術集会，
日本私立医科大学理学療法研究会学術集会，日本心臓リハビリテーション学会学術集会，日本発達障害学会研究大会，
日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 東京，日本リハビリテーション医学会学術集会，
リハビリテーション・ケア合同研究大会，日本臨床スポーツ医学会

以上は現時点での情報です。今後変更等は都士会ニュース・都士会ホームページにてお知らせして参ります。
日本理学療法士協会マイページの情報も合わせてご確認ください。なお、ご不明な点は以下の問合せ先までお問い合わせください。
2022 年度から生涯学習システムが大きく変わります。今年度が現在の方法で行われる最後の年となりますので、未修得単位がないように計画的に受講するようお勧めします。

問い合わせ先：公益社団法人 東京都理学療法士協会 学術局 新人教育部
E-mail：tpta-shinjin@pttokyo.net（携帯メールでの問合せは不可）

理学療法関連機器開発委員会

委員長　小川　智美

理学療法機器・評価測定機器および快適な生活を送るための道具の試作品（アイデア）募集

東京都理学療法士協会では今年度、以下の機器開発に関して助成を行います。
理学療法機器・評価測定機器の試作品作成、また自分自身やご家族の方が快適に日常生活を送るための道具を自作したという方が対象です。
また助成は必要ないけれど､多くの方が生活を送りやすくするためのアイデアを広めたいというご要望があれば紹介いたします。

試作品を作製してご応募いただいた場合、上限１万円まで助成いたします。助成にあたり、試作品作製時のレポート（応募要項参照）、領収書の提出をお願いしています。領収書は破棄せず保管をお願いいたします。

応募要項をご覧のうえ、下記メールアドレス宛にお申し込みください。
締め切りは、2021 年 12 月 25 日（土）です。皆様のご応募をお待ちしています。
ご不明な点に関するお問い合わせも下記メールアドレスまでお願いいたします。

＜応募要項＞
件名：「東京都理学療法士協会　試作品募集係」
氏名・所属・連絡先・試作品（アイデア）の内容。その際、以下の３項目をご記入ください。
１．機器の概要（写真）
２．期待される効果
３．概算費用（試作品応募時、領収書の PDF データ＊を添付）
＊助成決定の場合、後日改めて実際の領収書の提出をお願い致します。
担当：理学療法関連機器開発委員会　小川　智美
宛先：ptkanrenkikikaihatu@gmail.com

＊応募の試作品やアイデアの特許権などに関しては、当会では関与いたしませんので、ご承知おきください。

エスカレーターマナーアップ推進委員会

報　告

委員長　齋藤　弘

エスカレーターマナーアップ推進委員会

緊急事態宣言により延期しておりましたシンポジウムは令和３年３月に開催し、８月 24 日に開幕するパラリンピックで日本代表の旗手をつとめるパラ卓球の岩渕幸洋選手との対談も実現しました。また、同年３月には埼玉県で立ち止まってエスカレーターを乗ることを求める条例が成立されました。当委員会は理学療法士の視点で誰もが利用しやすいエスカレーターとなるように活動して参りました。様々な活動を通し、少しずつですが「エスカレーターを止まって乗りたい人がいる」という気づきは社会的にも広がってきているように考えます。また、社会の流れに応じて多様性の意識は高まり、考え方も変化してきているように感じます。当委員会は引き続き社会的啓発を行うとともに、今後の中核事業を定めて活動していきたいと思います。

活動報告

〇シンポジウム　～ コロナ禍でのエスカレーターの乗り方マナーを考える ～

日時：令和３年３月 13 日 (土) 14：00 ～ 15：30　Web 配信（聴講は無料）

対談：岩渕幸洋選手（パラ卓球・日本代表）との対談 VTR

基調講演：斗鬼正一（江戸川大学名誉教授）、河本斉（日本エレベーター協会）

シンポジウム：福田千夏 他（文京学院大学経済学部）、江本真聰（UD エスカレーター）、小林和樹（竹川病院理学療法士）

当日は計 46 名の方に参加して頂き、経済学、文化人類学者、エスカレーターのレールラッピング企業等様々な視点での提言だけでなく、障がいを持つ立場からの声など幅広い意見を伺うことができました。コロナ禍であっても困っている方がいることの本質は変わらず、今後も社会に対する理学療法士としての役割を確認できました。

＜対談動画＞

パラ卓球日本代表 岩渕幸洋選手　SP インタビュー

前編　https://youtu.be/-zz4HC42ebc

後編　https://youtu.be/_bJd7VQDiX0

〇東京新聞掲載（1 面）～ 社会へのメッセージ ～ と 当委員会の中核事業

東京２０２０までにエスカレーターの片側空けをゼロにする」をキャッチフレーズに取り組んでまいりました。

コロナ禍の前は、多くのメディアにも取り上げていただき社会的な関心が高まりましたが、「３密」回避の風潮から、残念ながらこのゴールを達成することはできておりません。

しかし、東京 2020 のこの時期に再び社会的啓発を新聞広告として行うとともに、今後の中核事業を定めました。

＜発行日＞令和３年８月 23 日　掲載エリア：一都三県、茨城、群馬、栃木、静岡

※新聞掲載記事、中核事業は次ページ掲載

＜ 東京新聞掲載記事　～ 社会へのメッセージ ～ ＞

エスカレーター
止まって乗りたい人がいる

みんなはなぜエスカレーターで歩くのか？

1 秒でも早く目的地に着きたいから？まわりの流れに合わせるため？

「大きな荷物を持っている時」「疲れている時」「子どもと手を繋いで乗りたい時」

エスカレーターに止まって乗りたいと思った事はありませんか？

「右側に止まって乗りたい」人がいる事を想像できますか？

左半身にマヒがあり右の手すりにつかまらないと安全に乗れない人

足を怪我して左手で杖をついている人

右の手すりにつかまって乗るのが当然だと思いませんか？

障がい、さまざまな特性や考え方をもった人々が安心して暮らすことができる街。

(公社) 東京都理学療法士協会はそんな街づくりを目指し活動をしています。

エスカレーターに止まって乗ってみませんか？

公益社団法人
東京都理学療法士協会
エスカレーターマナーアップ推進委員会

＜今後の中核事業＞

「風土・風習を変える」取り組みの軸を「小中学生向けの道徳教育」「企業向けのダイバーシティー関連事業」に置き、オリンピック・パラリンピックのレガシーを醸成する！

エスカレーターマナーアップ推進委員会

報　告

委員長　齋藤　弘

情報・メディア掲載

① 埼玉県 エスカレーターを立ち止まって乗ることを義務づける全国初の条例が成立

「埼玉県エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例」が成立し、令和３年３月 30 日に公布されました。
施行日は令和３年 10 月１日、罰則規定はありませんが、知事はエスカレーターの管理者に必要に応じて指導や助言、勧告ができるようになるとのことです。少しでも自主的な変化に繋がり、エスカレーターマナーを再考するきっかけになること期待したいと思います。

＜記事＞ https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210326/k10012937541000.html
＜条例＞ https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/135576/jyoubun.pdf

② 毎日新聞掲載

令和３年５月５日毎日新聞朝刊の「エスカレーターを歩かない条例」に対するオピニオンを掲載していただきました。

＜記事＞ https://mainichi.jp/articles/20210430/k00/00m/040/237000c 小林和樹（竹川病院）

③ 広報みなと掲載

令和３年６月 11 日発行（No.2161）分にて当委員会のエスカレーターマナーアップマークが掲載されました。
障害の特性を知ってください「エスカレーターは立ち止まって乗りませんか」とのテーマで紹介されました。

＜記事＞ https://www.city.minato.tokyo.jp/kouhou/kuse/koho/minato2021/202106/documents/210611.pdf

④ エスカレーターマナーアップ キーホルダーについて

現在までに 5800 名以上の方のからご請求をいただいており 7000 個以上の配布をしております。
引き続き配布をしておりますので、理学療法士の皆さんによる啓発としての使用，皆様の周りで困っている方への利用としてご請求いただくことが可能です。以下の URL よりお申し込みください。

＜申し込みフォーム＞ https://goo.gl/forms/v5JMip91e5Cf6rUT2

＜エスカレーターマナーアップ推進委員会＞
〇各種お問い合わせ（Mail）：esca.pttokyo@gmail.com
〇エスカレーターマナー 動画公開：https://youtu.be/MRBqxaKEEMM
〇 Facebook URL：https://goo.gl/nnXZcQ

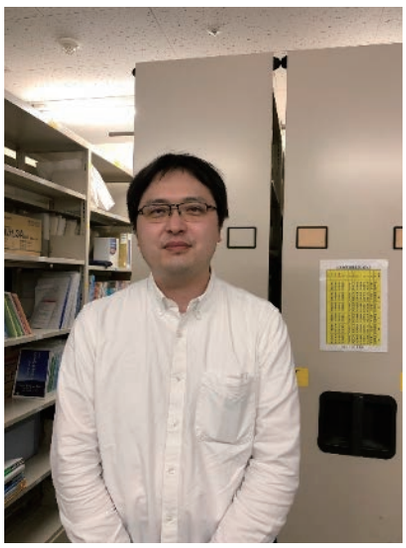
Facebook

文責：村田敬明（大久野病院訪問看護ステーション）小林和樹（竹川病院）

青梅支部 web 研修会

専門医に聞こう！リハビリテーション臨床力アップデートアワー

リウマチ医療最前線～介護予防まで



日時：令和 3 年 5 月 18 日（火）18：30 ～
場所：WEB
講師：今村仁医師　高木病院整形外科部長、青梅膝関節センター副センター長、スポーツ整形外科部長、リウマチ科部長
参加人数：44 名
内容：青梅市支部にてリハビリテーション分野において最前線でご活躍の専門医（今村仁氏）を招いて研修会が開催された。今回、青梅市支部では初めての web 研修会であり準備段階から不安も多かったが､何事もなく研修会を開催することが出来たことに安堵した。第一部では、「リウマチ治療の最前線から介護予防まで」をテーマに、リウマチの治療とリハビリテーションを中心にご教授して頂き、第二部では質疑応答と情報交換を行なった。薬物療法・手術療法などの最前線の話題からリウマチ体操、介護予防領域など多岐にわたる内容となった。リウマチ患者の生命予後は薬物治療の進歩とともに改善している。リウマチが十分にコントロールされていても、フレイルやサルコペニアの合併を念頭においたリハビリテーション治療を行う必要があり、我々はその重要なポジションを担っている。運動療法のみならず「人とのつながり」が治療の最優先課題であるとの言葉も印象的であった。日々進歩していく医療現場で、急性期だけでなく回復期や生活期で働くリハビリ専門職にとっても医療技術や知識をアップデートする有意義な機会となった。

報告者：関谷貴広（青梅三慶病院）

西多摩・南多摩ブロック部研修会のお知らせ

　このたび東京都理学療法士協会西多摩・南多摩ブロック部では、下記の日程において令和 3 年度オンライン研修会を開催させていただきたく存じます。
本研修会は、臨床において関わりの深い認知症を正しく理解し、本人やご家族の皆様に寄り添ったリハビリテーションを提供できるためのオンライン講座です。今回は認知症や精神障害に積極的に取り組まれている平川病院の奥出 聡氏をお迎えし、認知症の病型分類からその特徴とケアやリハビリテーションについてご講義頂きます。理学療法士のみならず、その他の医療従事者にも聞き易い内容となっています。是非この機会にご参加いただきますようお願い致します。

日　時：令和 3 年 10 月 28 日（木）19：00 ～ 20：30
会　場：オンライン開催（Zoom）
講　師：平川病院　奥出　聡氏
テーマ：認知症患者へのリハビリテーション職種の関わり方～タイプ別の事例を通して～
対　象：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、その他の医療従事者
定　員：200 名　※定員に達しましたら、受付を終了します
参加費：無料
ポイント付与：なし
参加方法：本案内に記載のグーグルフォームよりお申込みください
お申込み URL：https://forms.gle/6FRWrJ9NXYseprM29
申し込み期間：令和 3 年 10 月 21 日（木）まで
※参加者には後日、ZoomURL 及びパスワードをメールにてお知らせ致します。
問い合わせ：羽村三慶病院　リハビリテーション科　秦　和文
E-Mail:minaminishitamablock ● pttokyo.net
※上記アドレスの●を@に変更し、件名「西多摩・南多摩ブロック部研修会　問い合わせ」とお願い致します。
次ページにチラシ掲載

文責：秦　和文（羽村三慶病院）

主催：公益社団法人 東京都理学療法士協会 西多摩南多摩ブロック部

認知症患者へのリハビリテーション職種の関わり方

～タイプ別の事例を通して～

西多摩南多摩ブロック　オンライン研修会

講師：**平川病院　奥出 聡 氏**

対象：PT,OT,ST,その他の医療従事者

定員：200名 ※定員に達しましたら、受付を終了します

ポイント付与：なし

申込期間：令和3年10月21日(木)まで

申込方法：右記QRコードもしくは下記URLの
申し込みフォームよりお願い致します。

申込URL：https://forms.gle/6FRWrJ9NXYseprM29
参加者には後日、ZOOMのURL及びパスワードを
メールにてお知らせ致します。

開催日時:

令和3年10月28日(木)

19時～20時30分

参加費無料

Web開催

問い合わせ：羽村三慶病院 リハビリテーション科 秦和文
E-Mail：minaminishitamablock●pttokyo.net
※上記アドレスの●を@に変換し。件名「西多摩・南多摩ブロック研修会　問い合わせ」とお願い致します。

災害対策委員会

お知らせ

委員長　松本 浩一

第１４回災害時安否確認システム予行演習のお知らせ

毎年２回実施しております、災害時安否確認システム予行演習を下記内容で実施致します。近年の自然災害の増加を踏まえ、平時から有事に備えておく事が重要と考えております。皆様、奮ってご参加いただければ幸いです。

【災害時安否確認システム】
目　的：①会員の安否状況の確認と各地域の被災状況を確認する
　　②上記の情報を災害支援やボランティア派遣に役立てる

【第 14 回災害時安否確認システム予行演習】
日　時：2021 年９月１日（水）～ 2021 年９月８日（水）
方　法：以下 URL 又は QR コードから専用フォームにアクセスし、必要事項を記載・送信して下さい
備　考：東京都作業療法士会・東京都言語聴覚士会と合同での開催となります

＜ URL ＞ https://forms.gle/AA9TtkDwqacFiai2A

QR コード

【お問合せ先】
医療法人財団健貢会　総合東京病院
診療技術部　リハビリテーション科　　担当：松本
TEL: 03-3387-5119（直通）　E-mail: tokyopt.saigai@gmail.com

機関誌編集部

お知らせ

部長　中山　雅和

■　機関誌『理学療法　東京』投稿募集のお知らせ　■

当士会では年一回、機関誌『理学療法　東京』を発行しており、投稿原稿を常時募集しています。投稿された原稿は査読者に依頼し掲載可能とみなされれば校正ののち、その時点で最も発行が近い『理学療法 東京』に掲載します。

生涯プログラムへの反映について

・新人教育プログラムは、反映されません。
・認定・専門理学療法士制度では，『3.-4) その他の査読付きリハビリテーション関連雑誌の筆頭著者 10 ポイント』に該当します。
＊ただし、内容によって専門分野での認証されない場合があります。反映される方は、発刊後に自己申請をお願い致します。

《執筆投稿規定》

. 学術研究論文
2. 教育関係論文
3. 症例報告論文
4. 行政及び士会運営に関する論評等

【投稿者の資格】
公益社団法人東京都理学療法士協会会員に限る。但し会長が依頼した場合この限りではない。

【投稿原稿の条件】
投稿原稿は他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規定に従って作成すること。

【著作権】
本誌に搭載された論文の著作権は東京都理学療法士協会に属する。

【研究倫理】
ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

【原稿の採択】
原稿の採択は複数の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

【執筆規定】
1. 論文構成
1）標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称
は用いない。

2）キーワード：標題及び要旨から３個を抽出する。不十分な場合は本文から補充する。3）著者名、所属名
4）要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」を含めて 400 字程度で記載する。
5）本文：下記の各部分から成り立っていることを原則とする。
① はじめに（序論、諸言、まえがき等）
② 対象および方法（症例紹介）：倫理的配慮を記述すること。
③ 結果
④ 考察
⑤ 結論（まとめ）
⑥ 文献：引用文献のみとして本文の引用順に並べる。本文の該当箇所の右肩に一連番号を付ける。引用文献の著者氏名が３名以上の場合、最初の２名を記載し、他は「･他」あるいは「et al.」とする。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、号、頁、西暦年号の順に記載する。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、発行所名、発行地、年次、頁を記載する。
< 表記例 >
・藤田信子，桝田康彦・他：椅子座位における側方傾斜刺激に対する頸部・体幹・四肢の筋活動―筋電図学的分析．理学療法学 ,17:27-30,1990.
・Sepic,S.B,Murray,M.P,et al.:Strength and Range of motion in the Ankle in Two Age Groups of Men and Women.Am.J.Phys.Med,65:75-84,1986.
・真島英信，猪飼道夫：生体の運動機能とその制御 . 杏林書院 , 東京 ,1972,pp185-193.
・Junda,V.:Muscle Function Testing Butterworths,London,1983,pp224-227.
6）図表
原寸でそのまま掲載する（作図や縮小はしない）。図の番号および標題は図の下に、表の場合は表の上につける。本文と図表は分けて作成し、表・図・写真の挿入位置を本文の右欄外に指示する。
2. 原稿規定分量
原則として 400 字詰め原稿用紙 20 枚・8000 字以内とする。
3. 文字表記
原則として現代かな使い、数字は算用数字，単位は国際単位系 （SI 単位）を用いる。
4. 略語
略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。
5. 表紙頁，著者頁
　論文には表紙頁と著者頁をつける。表紙には標題、キーワード (3 個)、本文ページ数、図表枚数、原稿文字数を記載する。著者頁には著者名、所属名、責任者連絡先（住所・電話番号・Email アドレス）を記載する。表紙頁，著者頁の後に要旨･本文･図表を改めて記載する。
6. ページ番号・行番号
　原稿にはページ番号（最下部中央）と本文右（または左）に５行ごとに行番号を記載する。
【原稿送付方法および連絡先】
1）原稿送付先
原則として投稿原稿一式を１つのファイルにまとめ、電子メールに添付して下記へ送付する。上記が不可能な場合は問い合わせすること。
2）原稿送付先および連絡先
〒 189-0024　東京都小金井市中町 2-22-32
社会医学技術学院　　理学療法学科
(担当者) 中山雅和
TEL：042-384-1030
FAX：042-384-8508
E-mail：pt_tokyo_kikanshi@yahoo.co.jp

（平成 31 年 1 月 31 日　改定）

編集後記

昨日東京パラリンピックが閉会式を迎えました。当会も東京２０２０大会のため、多くの会員がその準備に当たられてきました。まずは直接的、間接的に関わられた皆様に敬意を表したいと存じます。このコロナ禍での準備には多くの労苦があったことは容易に想像できます。本号はこの歴史的事業への当会の関わりを報告するため発行日を８月 25 日から９月６日に変更いたしました。ぜひ多くの会員の皆様にご覧になっていただきたいと強く感じております。(M.I)

公益社団法人 東京都理学療法士協会 正会員数

9,783 名（令和３年８月２５日現在）

（事務局）　〒 151-0053　東京都渋谷区代々木 2-26-5　バロール代々木４０９号

Tel：03-3370-9035　FAX：03-3370-9036